



総合学習受け入れのご紹介

2011年2月23日

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

CTCグループのCSR

CSR方針

CTCグループが目指す社会と私たちの役割

CTCグループは、

社会の情報インフラシステムを支え、育む企業グループです。
これまで、その技術と製品・サービスをお客様に提供することによって
情報化社会の構築と発展に貢献してきました。

これより私たちは、

未来の情報化社会はどうあるべきかをよく考え、
お客様をはじめ、多様なステークホルダーとの対話を通じて、
情報インフラシステムをより社会に役立つものに進化させ、
すべての人々がITの恩恵を享受できる社会を創造することを目指します。

そのようにして、

ITの力で持続可能な社会を次世代に引き継いでいくことが
CTCグループのCSRです。

■CTCグループ行動基準

①コンプライアンスの徹底

私たちは、法令を厳格に遵守し、社会規範に反せず、社内規則を守り、誠実かつ公正に行動します。インサイダー取引、ハラスメント、社会常識を超えた贈答・接待、兼業や社内における政治・布教活動などのルール違反は行いません。

②社会に役立つ製品、サービスの提供

私たちは、グローバルな視野を持って、ITライフサイクルをトータルにサポートする製品・サービスを提供し、経済・社会の情報化に貢献することによりお客様を始めとする広く社会からの信頼獲得を目指します。

③公正な取引

私たちは、公正・透明・自由な競争でビジネスを展開し、政治、行政との健全かつ正常な関係を維持します。

④情報管理の徹底

私たちは、IT業界のリーディングカンパニーとして、お客様の情報を厳格に管理することに加え、会社情報および個人情報を細心の注意を払って適切に取り扱います。

⑤働きやすい職場環境の実現

私たちは、ゆとりと豊かさ働きやすい彩のある職場環境を創り上げ、人格・個性・多様性(ダイバーシティ)を尊重して自由に創造性が発揮できる魅力ある企業風土を実現します。

⑥環境への配慮

私たちは、日々の企業活動において、省エネ・省資源・廃棄物削減など積極的に取り組み、地球環境との調和に努めます。

⑦社会貢献

私たちは、企業市民としての自覚を持ち、積極的に社会活動に参加し、地域の一員として貢献します。

⑧反社会的勢力および団体との対決

私たちは、社会秩序や安全、企業の健全な行動に悪い影響を与える個人・団体とは一切関わりません。

⑨報告・再発防止

私たちは、コンプライアンスに反した行為を見つけた場合、または不注意などにより自ら行った場合、速やかに上長またはヘルプラインに報告し、再発防止に努めます。

⑩率先垂範

経営者・管理職は、率先垂範してコンプライアンスを遵守し、部下に周知徹底を行い、万一違反が発生した場合には自ら原因究明・問題解決に当たり、最善の対策を講じるとともに、再発防止に努めます。

■ステークホルダーとの関わり

企業はさまざまなステークホルダーとの関わりのなかで事業活動を行なっています。CTCグループも、ステークホルダーとの良好な関係を維持、発展させ、持続可能な社会の創造に貢献していきます。

株主、 投資家	株主で構成される株主総会は、CTCグループにおける最高意思決定機関です。当社は株主総会の判断にしたがって経営を行なっています。CTCグループがバランスのとれた経営を行なうために、社会の多くの分野の方々に投資いただくことが非常に重要です。透明性の高い経営のため、今後も適時適正な情報開示に努めます。
お客様	直接のお客様と、その先のエンドユーザの皆様がCTCグループのお客様です。お客様との対話を密に行ない、社会の要請に的確に応える高品質の製品・サービスを提供することで、持続可能な社会創造に貢献します。
サプライヤ	すべてのサプライヤは、私たちの大切なビジネスパートナーです。革新的なサービス、ソリューションの創造にはサプライヤとの協働が不可欠です。納期、価格、品質だけではなく、バランスのとれた健全なパートナーシップを築いて、互いが発展するよう努めます。
社員	社員はCTCグループの宝です。一人ひとりの社員が能力を十分に発揮し、自己実現できる環境を整えるよう努めます。また、社員の豊かで健康な生活のために労働環境の充実、改善を進めていきます。
地域社会	CTCグループは、地域社会の一員として、人材や知識／情報技術などの資源を活用し、豊かでゆとりある社会の実現を目指して、社会貢献活動を積極的に進めていきます。

受け入れ概要

■受け入れ校

千代田区立九段中等教育学校 1年生4～5名

中等教育学校とは、中高一貫教育の課程で、前期中等教育(中学校などにおける教育)と後期中等教育(高等学校などにおける教育)を一貫して実施する学校で、本学校は2006年に旧都立九段高等学校と、旧千代田区立九段中学校が統合してできた学校である。

■授業名

総合的な学習の時間 『都市文化』

■授業の目的

- ①学校沿革の千代田区やその近隣の企業・団体・学生等の活動について知り、日本の中心である都市に根付く文化とは何かを考える。さらに、企業・団体・教育機関等を訪問し、それらが抱える課題や問題について共に考え、解決策を提案する。
- ②キャリア教育の観点から、千代田区及び近隣の企業・団体・教育機関等から課題を提供してもらい、課題解決に向けて自分たちで取り組み、自ら行動しようとする意識を育てる。
- ③社会性の育成の観点から、一連の学習を通して社会ルール・マナー教育を実践する。

■授業の内容

企業への訪問は全2日間で、1日目に課題を提供し、2ヶ月ほどかけて調査・製作をし、2日目にプレゼンテーションを実施する。課題のテーマは、基本的に前期(4~9月)の総合学習『環境学習』の深化を期待し、環境問題にまつわるものを企業に期待している。

受け入れ事例

第1日目(2010/11/26)

- ①自己紹介
- ②オフィス見学
(社長室、執務室、サーバールーム)
- ③課題の提供

①自己紹介



千代田区立九段中等教育学校の1年生です。
よろしくお願ひします。

②オフィス見学



社長の椅子の座り心地は？



執務エリアを見学



セキュリティの説明を真剣に聞きます



ラックに格納されている
たくさんのサーバ群に
興味津々

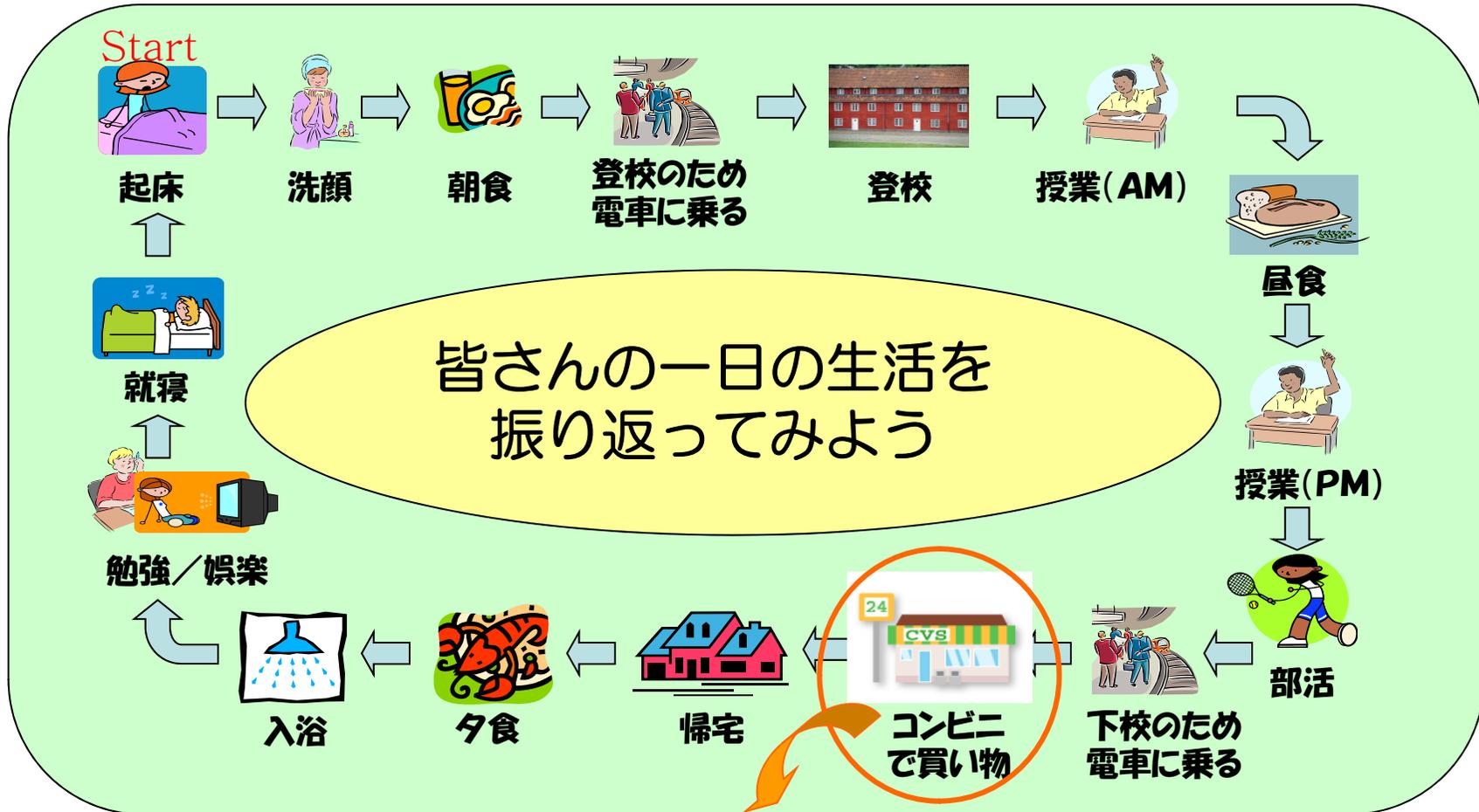
③課題の提供

課題：「ITで環境を守る」

ITを駆使して地球環境を守るためのアイデアを考える

③課題の提供(続き)

ヒント...



③課題の提供(続き)

ヒント...

例えば、コンビニの場合

①物流の効率化 ⇒ 排気ガスの削減

②的確な仕入れ ⇒ ゴミの削減

につながります。

これらはすでに対応が進んでいますが、現在の仕組みにこだわらず、斬新なアイデアを期待します。

普段何気なく生活している中で、少しでも意識して世の中を観察してみることで、今まで気がつかなかったことが見えてくるはずです。



第2日目(2011/1/21)

- ①生徒より課題に対するプレゼンテーション
- ②プレゼンテーションに対するアドバイス

①生徒によるプレゼンテーション

【課題】 「ITで環境を守る」

【提案名】 「車両スピードコントロールシステム」

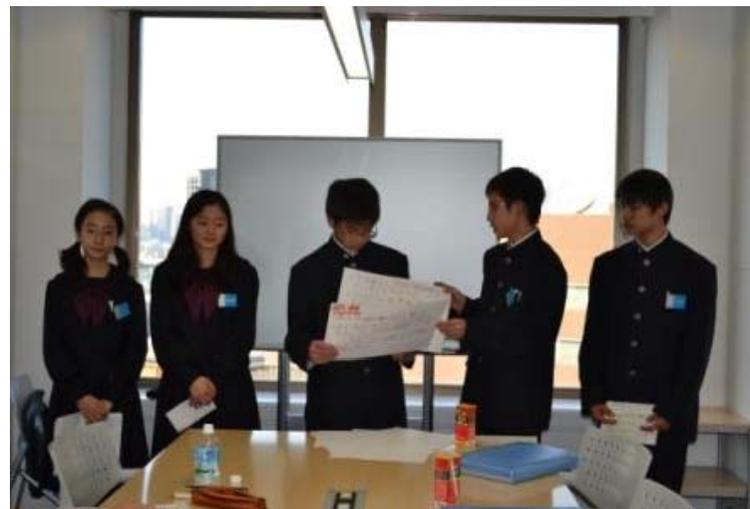
【提案概要】

自動車を走行させる際、最も多くCO₂を排出するのは発進時であることに着目した。信号待ちなどでアイドリングをストップさせることもCO₂排出量を削減する手段の一つであるが(すでに実現済)、そもそも自動車を停止させなければ、より一層のCO₂排出量削減が見込めると考えた。本提案は、衛星を使って車両スピードをコントロールすることで、信号で停止することなく目的地に到着し、その結果CO₂の排出量を削減するものである。

①生徒によるプレゼンテーション(続き)



昨年まではPowerPointで資料を作成し、PCとプロジェクターを使っでの発表でしたが、今年は画用紙に手書きで説明文と図表を書きました。



5人が力を合わせて作成したプレゼン資料。説明もパート毎に役割分担しています。

②プレゼンテーションに対するアドバイス



後日行われるクラスでの発表に向けて、さらに素晴らしいプレゼンテーションとなるよう、資料の構成、説明の仕方などさまざまなアドバイスを行いました。



<生徒たちの感想>

- 扱っている情報の量の多さに驚いた。
- あまり身近に感じないような企業でも、社会のいろいろな所で活躍していることが分かった。
- 今回、ITについて学習して、ITが身近に感じられた。
- 今、出来るエコな取り組みをしていることが分かった。
- ITという一見、環境に関係ないような所でも環境問題に取り組めることを知って、驚いた。

参考(過去の受け入れ実績)

<過去の受け入れ実績>

●2006年度

【課題】日本における風力発電の導入量を増やすためには、どうすればよいか

【発表】自然破壊、環境破壊等の問題点をクリアしつつ、適切な設置場所等を提案

●2007年度

【課題】コンピュータが動かなくなったある日、世の中はどうか

【発表】世界中のコンピュータが動かなくなってしまったことを想定した一日の生活を振り返り、その影響の大きさを理解し、対策を提案

●2008年

【課題】ファミリーハウス^(※)って何？

【発表】ハウスの用途、利用者、戸数、関連企業などを調査し、ハウスにできること、周知方法などを提案

●2009年

【課題】食の安全を高めるためにITをどう役立てるか

【発表】生産物を一括して管理し、食料配送センターから第三者を介さずに消費者へ直送できる「フードシュートシステム」や、食品の賞味期限を管理できる冷蔵庫などを提案

(※)ファミリーハウスとは、小児がん等の難病治療のために、地方から大都市の病院に来ている子どもと介護する家族の疲れた心と身体を温かく迎え、宿泊施設として使っていただく「もうひとつの我が家」で、CTCが支援している認定NPO団体です。